

Brandenburg Concertos J.S. バッハ

「ブランデンブルク協奏曲」

堀米ゆず子 with PAC オーケストラ 《全6曲》



「ヴァイオリン」
堀米ゆず子

祝祭日のアフタヌーンに響く
喜びに満ちた宮廷音楽



第1番～第6番 (BWV1046～1051) 全6曲

輝き、躍動するバロックの最高傑作を豪華メンバーで一挙に!



【ヴァイオリン】白井 圭
元NHK交響楽団
ゲストコンサートマスター



【ヴィオラ】鈴木 学
東京都交響楽団ソロ首席奏者



【チェロ】辻本 玲
NHK交響楽団首席奏者



【チェンバロ】曾根麻矢子



兵庫芸術文化センター管弦楽団メンバー

2024

2/23

金祝

2:00PM 開演 (1:15PM 開場 / 4:30PM 終演予定)
A 3,000円 B 1,000円 (全席指定・税込) ※休憩あり

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札ロスク / JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 10:00AM-5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日 <https://www.gcenter-hyogo.jp>

一般発売

10/22(日)

チケット
予約

●芸術文化センター 0798-68-0255 <https://www.gcenter-hyogo.jp>
●チケットぴあ <https://pia.jp/t/> ●ローソンチケット <https://l-tike.com> ●イープラス <https://eplus.jp>

芸術文化センター会員電話予約受付開始 10/20(金)

直接購入 芸術文化センター2階総合カウンター [10/24(火)より、残席がある場合のみ]

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター



兵庫県立
芸術文化センター



*プレイガイドでのお取り扱いについては各プレイガイドにお問い合わせください。*未就学児童はご入場いただけません。*やむを得ない事情により、出演者等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

まるで万華鏡のように色鮮やか! 躍動感溢れる弦楽合奏、華やかに重なりあうソロヴァイオリンと管楽器群、高らかに鳴り響くトランペット、典雅なチェンバロ——。

「ブランデンブルク協奏曲」は、数ある協奏曲の中でも金字塔の一つとして君臨しているJ.S.バッハ(独・1685-1750)の代表作です。1721年ケーテン宮廷楽長を務めていたバッハがブランデンブルク辺境伯へ献呈した全6曲の曲集で、6曲とも異なる楽器編成で書かれ、ソロ楽器の多彩さ、表情豊かな楽想、その芸術性は、現代にいたるまで多くの人々を魅了してやみません。

この祝祭感溢れる傑作を、エリーザベト王妃国際コンクール日本人初優勝以来、ベルギーを拠点に世界の第一線で活躍を続ける堀米ゆず子のソロヴァイオリンでお贈りします。「バッハは私の背骨」と語り、バッハ演奏をライフワークとしている堀米。兵庫県立芸術文化センターに於いても「無伴奏ソナタとパルティータ全曲演奏」をはじめ、旋律湧き立つ比類なきバッハを刻んできました。

さらに、今を時めく白井圭(ヴァイオリン)、鈴木学(ヴィオラ)、辻本玲(チェロ)、そしてバッハ・チェンバロ演奏の大家・曾根麻矢子と豪華ゲストを迎え、PACオーケストラメンバーとともに今回限りの特別編成でお届けします。

祝祭日のアフタヌーン、唯一無二のアンサンブルで喜びと輝きに満ちた音楽を一挙に聴くまたとない機会。どうかお聴き逃しなさいませぬように!

数々のバッハ名演を刻む
堀米ゆず子が贈る
傑作中の傑作
「ブランデンブルク協奏曲」



第5番は「史上初のチェンバロ協奏曲」と表されるほどチェンバロが大活躍!

第1番	独奏楽器(ヴァイオリン、オーボエ(3)、ファゴット、ホルン(2))、弦楽合奏、通奏低音
第2番	独奏楽器(ヴァイオリン、フルート、オーボエ、トランペット)、弦楽合奏、通奏低音
第3番	ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、通奏低音
第4番	独奏楽器(ヴァイオリン、フルート(2))、弦楽合奏、通奏低音
第5番	独奏楽器(ヴァイオリン、フルート、チェンバロ)、弦楽合奏、通奏低音
第6番	ヴィオラ、チェロ※、チェロ、通奏低音 ※ヴィオラ・ダ・ガンバパート

パート名は今回演奏予定の楽器で記載。通奏低音はコントラバスとチェンバロ(第5番のぞく)が担当予定。

堀米ゆず子(ヴァイオリン) Yuzuko Horigome, violin

5歳からヴァイオリンを久保田良作氏のもとで始め、1975年より江藤俊哉氏に師事。1980年桐朋学園大学卒業。同年エリーザベト王妃国際音楽コンクールで日本人初の優勝を飾る。以来ベルリン・フィル、ロンドン響、シカゴ響、クラウディオ・アバド、小澤征爾、サイモン・ラトルなど世界一流のオーケストラ、指揮者との共演を重ねている。世界中の音楽祭にも数多く招かれ、室内楽ではルドルフ・ゼルキン、アルゲリッチ、クレメール、マイスキーなど数多くのアーティストと共演。また、2011年東日本大震災に対し、微力ながら手助けになる事を願って、毎年ブリュッセルに於いて「復興コンサート」を行なっている。2016年より仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門審査委員長。現在、ブリュッセル王立音楽院教授、マーストリヒト音楽院教授。使用楽器は、ヨゼフ・ガルネリ・デル・ジェス(1741年製)。

公式サイト:<https://yuzukohorigome.com/>



白井 圭(ヴァイオリン) Kei Shirai, violin

トリニダード・トバゴ共和国生まれ。東京藝術大学付属高校を経て、同大学を卒業。ウィーン国立音楽演劇大学室内楽科にてヨハネス・マイスル氏に師事。日本音楽コンクール第2位、ARDミュンヘン国際コンクール第2位等の受賞歴をもち、ソリストとしてチェコ・フィルなど内外のオーケストラと共演する。神戸市室内合奏団コンサートマスター、NHK交響楽団ゲスト・コンサートマスターを歴任。Trio Accord、Stefan Zweig Trio、Ludwig Chamber Playersのメンバー。レボリューション・アンサンブル音楽監督。2023年より鶴沼音楽アカデミーを主宰。



鈴木 学(ヴィオラ) Manabu Suzuki, viola

桐朋学園大学を卒業後、DAAD奨学生としてハンブルク国立音楽大学に留学。93~04年リンツ・ブルックナー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者を務め、04年4月に帰国。現在東京都交響楽団ソロ首席奏者。ルツェルン音楽祭、サンタフェ室内楽音楽祭等の音楽祭に招かれるなど国際的活躍を続けている一方、プロッコのヴィオラ組曲(コンチェルト版)、エロードのヴィオラ協奏曲等を日本初演するなどヴィオラの作品を積極的に紹介している。インディアナ大学等に招かれマスタークラスを行う他、桐朋学園大学院大学、桐朋学園OA、MMCJ等にて後進の指導にも精力的にあたっている。



辻本 玲(チェロ) Rei Tsujimoto, cello

東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業後シベリウス・アカデミー、ベルン芸術大学に留学。2009年ガスパー・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞(日本人最高位)。2013年齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2019年CD『オブリヴィオン』をリリース(「レコード芸術」誌特選盤)。NHK交響楽団首席チェロ奏者を務める。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより1730年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを、弓は匿名のコレクターよりTourteを特別に貸与されている。

公式サイト:<https://www.rei-tsujimoto.com>



曾根麻矢子(チェンバロ) Mayako Sone, cembalo

1986年ブルージュ国際チェンバロ・コンクールに入賞。同コンクールの審査員であった故スコット・ロスに指導を受ける。1991年エラート・レーベル(仏)初の日本人アーティストとしてCDデビュー。エイベックス・クラシックスよりCDを多数リリース。1996年「第6回出光音楽賞」をチェンバロ奏者として初めて受賞。2020年秋より、HAKUJUHALLを舞台に、バッハの主要作品を数年間にわたって演奏するコンサートシリーズを行なっている。

公式サイト:<https://mayakosone.com>



兵庫芸術文化センター管弦楽団 Hyogo Performing Arts Center Orchestra

2005年9月設立。阪神・淡路大震災からの復興のシンボルとしてオープンした兵庫県立芸術文化センターの専属楽団。芸術監督は佐渡裕。世界中でオーディションを行い、多国籍の若手奏者により編成されアカデミーの要素も持つ。同センターを拠点に多彩な活動を展開。2006年関西元気文化圏賞ニューパワー賞、2011年神戸新聞平和賞、2017年ミュージック・ベンクラブ賞受賞。通称PAC(パック)オーケストラ。

公式サイト:<https://hpac-orc.jp>

